

視能訓練士学科 授業科目概要(2024年度) 令和6年度入学生

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
基礎分野	科学的思考の	14	科学的・理論的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培う。生命倫理及び人の尊厳を幅広く理解する。国際化及び情報化社会に対応できる能力を養う。	1	眼科基礎数学	基本である数の意味、四則演算などを復習し比の問題、三角関数などを学習する。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				2	教育学	教育の意味を考えながら、人間の発達にとって教育作用を理解し基礎知識の習得をめざし、医療従事者として生涯にわたり学び続ける必要性があることの重要性を学ぶ。	後藤明子	－	1	15	30	2	講義
	人間と生活			3	キャリア教育	今後職業人として活躍するために必要なスキルを身につける	原木伴美	－	1	30	60	4	講義
				4	現代倫理	社会におけるさまざまな規範の根拠について、哲学の誕生から宗教の発展、現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ。	齋藤照安	高等学校校長及び専門学校校長としての実務経験	1	30	60	4	講義
	社会の理解			5	英語	外国人の増加にともない、国際共通語である英語でのコミュニケーションをとる場面も多くなり、英語の必要性が高まっているため、簡単な英会話をできるように学習する。	小林昌人	－	2	15	30	2	講義
				6	基礎光学	視能訓練士に必要な物理学的知識を学習し、特にレンズ計算に必要な光学系の波動、波の性質、光の特性の基本的なところを重点的に学習する。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	8	人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解する。	7	心理学	心理学を身近なものとしてとらえられるようにし、それを自身の生き方に生かしていけるようにすることを目標とし、心理的配慮などを考慮した考え方もできるように学習する。	土屋廣人	児童相談所における臨床心理士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				8	精神衛生学	健康及び疾病の予防の基本的知識を学ぶ。また、自らの健康と疾病の予防についても理解を深める。健康の維持、重篤な疾病の予防として救急法についても学ぶ。	三嶋秀子	総合病院における看護師・精神保健福祉士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				9	人間発達学	ヒトの誕生から死に至るまで続く発達と変化を、解剖生理的、心理的な面などから、正常過程を理解した上で、視能訓練士として、対象者の理解をできるよう学習する	本多祥子	総合病院における看護師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				10	保育学	視能訓練士は、子どもの心身の発達を理解し、発達や心理に合わせた検査や訓練を行う必要があるため、子どもの心身の発達を理解し、視能訓練士として、心身の発達に適した検査・訓練法を選ぶことができるよう学習する。	杉山有美	幼稚園・保育園における幼稚園教師及び保育士としての実務経験	1	15	30	2	講義
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	9	健康、疾病及び障害について、予防と回復過程の促進に関する知識を習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。	11	病理学	視機能療法の実践に必要な各種疾病の病因、病態、病理を理解するとともに、各疾病の病態や診断の把握に必要な基本的知識を学習し、回復の過程を理解する。代謝異常症、循環障害、炎症、免疫、腫瘍などを中心に学習する。	松岡哲平	総合病院における医師(内科医)としての実務経験	1	15	30	2	講義
				12	解剖生理学	眼科を学ぶ基礎知識として、正常な人体の働きを知り、基本的な疾患の理解する。	松岡哲平	総合病院における医師(内科医)としての実務経験	1	16	30	2	講義
				13	障害の理解	脳の障害部位における機能障害を理解し、認知障害も含め、障害の原因・病態評価などを学習する。そして、高次脳機能障害における視覚機能への影響も学習する。	石田麗	障がい者支援施設における介護福祉士としての実務経験	3	8	15	1	講義
				14	一般内科学	人体の構造、生理機能、病気のメカニズムなどの医学をできるだけ幅広く学ぶ。医療従事者として以外にも、普段の実生活で健康に過ごしていく上で必要な知識について学習する。	松岡哲平	総合病院における医師(内科医)としての実務経験	1	15	30	2	講義
				15	医療安全	インシデント・アクシデントや医療事故や過誤、院内感染、アナフィラキシーショックや心肺蘇生法について学習する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	8	15	1	講義
				16	眼科薬理学Ⅰ	眼科における疾病の治療、検査、手術において投与される薬剤について幅広く学ぶ。視能訓練士として必要な基本的な薬剤の作用機序と効果、および副作用について学習する。	永野繁光	総合病院・調剤薬局における薬剤師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				17	眼科薬理学Ⅱ	国家試験過去問題を分析し、眼科に必要な薬剤の知識を整理する。	永野繁光	総合病院・調剤薬局における薬剤師としての実務経験	3	8	15	1	講義
	視覚機能の基礎と検査機器	8	視覚の情報処理過程を系統的に学び、視覚機能の疾病や障害を総合的に検出する視覚機能診断機器の原理と操作及び検査・測定方法の基礎理論と技術を習得し、疾病と障害との関連を学習する。	18	視器の解剖生理・病理学	眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理・病理について学習し、眼科学の基本を習得する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	講義
				19	視器の解剖生理学	眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理について国家試験に向けて学習する。	青木未来	総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	8	15	1	講義
				20	視覚生理学Ⅰ	眼の光学系、視覚伝導系、運動系からなる視覚系および電気生理の基礎について学習する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				21	視覚生理学Ⅱ	視覚は、眼の光学系・視覚伝達系及び目の運動系(眼球運動・瞳孔運動・調節・開閉運動)からなり、脳で統合される情報処理機構であることを統合的に理解し、視覚経路の生理・解剖、視覚生理学における知識を習得する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
保健医療福祉と視能障害の害の理の念	保 健 ハ ビ リ テ ィ シ ョ ン 障 害 の 理 の 念	7	保健医療福祉の推進のために、心身の状態を理解し、視能訓練士が果たすべき役割について学習する。併せて、地域社会における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。	22	公衆衛生学	公衆衛生学は、社会や集団を対象にした医学であり、個人の健康を対象にした臨床医学に対し、社会全体から心身の疾病の予防や健康増進に係わる。保健医療、社会福祉、環境保全など多岐にわたる内容から構成され、基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について学習する。	荒尾浩子	保健師及び看護学校講師としての実務経験	1	15	30	2	講義
				23	関係法規	視能訓練士法を中心に、視能訓練士業務に必要な関係法規(角膜移植法、臓器移植法、学校保健法など)を学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				24	ロービジョン医学Ⅰ	リハビリテーション職種である視能訓練士が担う保健医療福祉の推進について学び、視能訓練士が知っておくべき障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。ロービジョンケアの具体的な手法について学習する。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				25	ロービジョン医学Ⅱ	ロービジョンに関する国家試験過去問題の検討、対策を行い、国家試験に備える。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	3	8	15	1	講義
基礎視能矯正学	基 礎 視 能 矯 正 学	12	視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。	26	基礎視能矯正学	バナムの融像感覚圈、正常両眼視機能の成立条件と発達、網膜対応の種類、内斜視、外斜視について学習する。外眼筋の特徴、作用、眼球運動の法則、小児視力の特徴、視力の発達、弱視について学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	講義
				27	視能矯正学矯正学実習Ⅰ	国視検査、大型弱視鏡、遮閉試験の対象・条件・手技・評価を学ぶ。	☆鈴木ほまれ 佐野智久	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	2	実習
				28	視能矯正学矯正学実習Ⅱ	大型弱視鏡・プリズムによる9方向眼位検査、眼球運動検査、融像検査、4プリズム基底外方試験、マドックスを用いた検査の手技と評価を学ぶ。	☆鈴木ほまれ 佐野智久	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	60	120	4	実習
				29	視能矯正学矯正学実習Ⅲ	主訴から検査カリキュラムを構築し、結果を予想することで検査・診療の一連の流れを把握する。患者が訴えるであろう事柄を予想することで、必要な検査を考え疾患に対する理解を深める。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	1	実習
				30	視能矯正学	筋原性斜視、機械的斜視、その他の斜視の臨床所見、鑑別に必要な検査を学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				31	生理光学Ⅰ	眼球の光学的な役割と理解を深める。屈折矯正に必要な調節、眼鏡、コンタクトレンズなどについて学習する。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				32	生理光学Ⅱ	生理光学に関する国家試験過去問題の検討、対策を行い、国家試験に備える。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義
				33	眼鏡光学	視能矯正に必要な眼鏡処方(成人・学齢期・乳児・二重焦点・果進)、プリズム処方に関係する知識を学ぶ。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
視能検査学	視 能 検 査 学	11	視能検査の専門的知識と技術を習得し、評価について学習するとともに、職業倫理を高める。	34	視能検査学	眼科一般検査の専門的知識と技術を修得する。検査結果の分析、評価の方法を学ぶ。また、視能訓練士としての職業倫理について理解し、医療技術の専門職業人としての自覚を養う。	中島茂雄	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				35	視能検査機器学	種々の眼科一般検査の原理と目的、それぞれの機器の検査結果の分析、評価の方法を学び、検査結果から眼疾病を同定できる専門的知識を習得する。	中島茂雄	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				36	視能検査学実習Ⅰ	視覚機能検査機器の原理と操作を学習し、グループでの演習により検査・測定方法の基礎理論と基本的技術を習得する。また、障害を総合的に検出することを演習し、技術を習得する。	☆太田陸 星野貴大	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	2	実習
				37	視能検査学実習Ⅱ	視能訓練士が行う眼科一般検査を中心に知識・技術を学習し、グループでの演習により実践的な技能を身につけ、検査結果の適切な評価の仕方とも修得する。	☆太田陸 村上綾	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	2	60	120	4	実習
				38	視能障害学実習	主訴から検査カリキュラムを構築し、結果を予想することで検査・診療の一連の流れを把握する。患者が訴えるであろう事柄を予想することで、必要な検査を考え疾患に対する理解を深める。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	1	実習
				39	視能検査学基礎演習	視能訓練士が行う眼科一般検査を中心に演習形式で知識のみならず、実践的な技能を身につける。評価についてレポート作成し適切な評価の仕方を修得する。	☆太田陸 村上綾	診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	演習
				40	生理光学実習Ⅰ	視力検査、他覚的屈折検査、調節機能検査の基本的な測定方法や検査条件を理解する。	☆太田陸 星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	2	実習
				41	生理光学実習Ⅱ	実践に必要な生理学的検査他覚的屈折矯正、自覚的屈折矯正、レンズメーターなど生理光学的矯正を学習し、演習によって理論を理解し測定技術を習得する。	☆太田陸 星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	60	120	4	実習
視能障害学	視 能 障 害 学	6	視能障害の予防と治療の観点から、種々の障害を理解する。	42	眼疾病学Ⅰ	眼科の疾患について、基本的な知識を身につける。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				43	眼疾病学Ⅱ	眼科疾患及び眼科関連全身疾患について学習し、疾患の名称、病態を理解する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義
				44	基礎神経眼科学	視能矯正に必要な基礎的な解剖、神経眼科的疾患の理解を深める。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				45	神経眼科学Ⅰ	核・核下・核上性疾患について、解剖や病態を学ぶ。	星野貴大	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				46	神経眼科学Ⅱ	脳神経の構造と視路及び眼球運動経路の解剖・生理を理解し、視交叉より末梢の視路障害核上性障害、視神経・外側膝状体・皮質障害に関して学習する。	青木未来	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	3	8	15	1	講義

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修 学年	コマ数	授業 時数	単位数	授業 形態
視能訓練学	10	視覚発達の促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導及び管理の立場から必要な知識と技術を習得する。 また、感染症に対する対応と救急対応についても学ぶ。	47	弱視・斜視訓練学	斜視・弱視訓練の原理、適応と具体的な方法について学ぶ。 外眼筋手術の適応と術式について学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義	
			48	視能訓練学Ⅰ	網膜対応検査を両眼中心窩、中心窩と道ずれ領の関係を評価する方法に分類して学ぶ。 立体視検査を両眼分離方法から、その種類、特徴、検査方法、評価方法を学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義	
			49	視能訓練学Ⅱ	視能矯正分野の復習と過去問題を解くことでポイントを確認する。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義	
			50	視能訓練学持論	国家試験過去問題を分析し、要点を確認する。 主要科目がどのように繋がっているかを考え、知識を整理する。	☆鈴木ほまれ 青木未菜	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	45	90	6	講義	
	16	基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。 また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	51	臨地実習Ⅰ	眼科施設において、現場の視能訓練士の下で、基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	☆鈴木ほまれ 太田陸	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1		40	1	学外実習	
			52	臨地実習Ⅱ	眼科施設において、現場の視能訓練士の下で、基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	☆鈴木ほまれ 村上綾	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2		40	1	学外実習	
			53	臨地実習Ⅲ	患者の主訴から問題解決までを「チーム基盤型学習(TBL)」を通して学ぶことで臨地実習に備える。	☆鈴木ほまれ 星野貴大	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3		40	1	学外実習	
			54	臨地実習Ⅳ	眼科施設において、現場の視能訓練士の下で、基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	☆鈴木ほまれ 星野貴大	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3		520	13	学外実習	
その他	総合演習	本学独自のカリキュラム内容であり、今後職業人として活躍するために必要な内容を取り入れ、職業人としてのスキルを強化する。	55	ゼミナール1	専門教科を学ぶ上での自分に合った効果的な学習方法を考える。また、眼科領域での接遇、感染症、点眼薬などの基本的知識を習得することで臨地実習に備える。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	講義	
			56	ゼミナール2	国家試験過去問題の科目分類を行うことで国家試験勉強の土台を築き、学生調書を作成することで臨地実習に備える。	村上綾	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義	
			57	ゼミナール3	症例報告発表を行い、臨地実習で得た知識を各自が振りかえり、共有する。	星野貴大	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	3	30	60	4	講義	
			58	就職指導	就職活動は自分の仕事を中心とした人生(将来)を考え、設計する為の重要な役割を果たし、自己実現に向けた第一歩であることを理解させる。自己を知り、就職先を知って、いかに自分を高く売り込めるかを学ばせる。	原木伴美	—	2	15	30	2	講義	
									合計	1,099	2,830	142	